事務事業評価シート(平成22年度)

(ソフト事業)

(A面)

1 事務事業の概要 <Plan①>		担当課	課長名	記入者
		こども未来課	越川昌信	笹倉彩
事務事業名		新規・継続	事業開始年度	完了予定年度
養護教諭派遣事業(園保健事業)		新規	年度	年度
		☐ 継続	☐ H21以前	☐ 未定
事務事業の体系				
計画掲載	多可町総合計画	(章) 2 笑顔でつむ、あったかいまち	(節) 1 のびのび育とう、育てよう	
	個別計画	(基本計画)		
根拠法令・条例・要綱等		事業区分(該当する区分に「○」)		
学校保健安全法		☐ ソフト事業	施設の維持管理	
		☐ 義務的事業	内部管理事務	
事務事業の具体的内容		☐ 建設・整備事業	計画などの策定	
保健指導、健康診断、健康相談・相談活動、学校保健に関する各種計画及び組織活動の企画、運営への参画及び一般教員が行う保健活動(園保健情報の把握、救急体制及び救急処置、園環境衛生、伝染病の予防)への協力、保健室の運営		補助金の支給	有 ☐ 無 ☐	
		委託	全部委託 ☐ 一部委託 ☐	
		☐ 委託なし(全部直営)		

2 事務事業の目的 <Plan②>

対象(働きかける相手・誰が・もの)	受益者(誰を・何を)	意図(どういう状態にしたいのか)
幼児及び保護者、教職員	幼児及び保護者、教職員	疾病・伝染病・事故の予防、健康問題の解決、心身の健康の保持・増進、早期救護、応急処置、疾病早期発見・早期治療

3 事務事業にかかる予算細目 <Plan③>

3 事務事業にかかる予算細目 <Plan③>		会計名	一般	会計
細目名	普通旅費	細目名	管内旅費	細目名
予算	款 項 目 大事業	予算	款 項 目 大事業	予算
コード	10 1 3 1	コード		コード

4 事務事業実施にかかるコスト <Do①>

事務事業・人員		単位	21年度 決算	22年度 実績(見込)	23年度 計画	備考 (全体事業費など)
総コスト			6,567	6,647	8,925	
コストの内訳	直接事業費	千円		80	80	
	所属内間接費					
	人件費		6,567	6,567	8,845	
	投入人員	人/年	1.14	1.14	1.00	
	正職員 嘱託員					
財源内訳	国・県支出金					
	地方債	千円				
	その他特定財源					
	一般財源		6,567	6,647	8,925	

5 事務事業の手段<Plan④>と活動指標 <Do②>

事務事業を構成する業務	手段 (事務事業整理シートより)	活動指標 (手段の数値化)	単位	21年度 実績	22年度 見込	23年度 目標
1 保健指導	保健指導・ほけんだより、健康診断、健康相談活動、学校保健安全計画立案への協力、教職員の	ほけんだより(4幼稚園保護者) はみがき教室(4幼稚園児) 病気予防教室(4幼稚園児)	部 回 回	15 4 4	18 4 4	18 4 4
2 健康診断	行う保健活動(健康生活の実践状況、心の健康に関する実態、救急体制整備・応急処置、園環境衛生活動実施への協力、園内健康状況の把握)への協力、健康診断の器械・器具の整備と管理、救急	内科健診 耳鼻科健診 眼科健診 歯科健診(中町幼稚園)	回 回 回 回	3 2 2 1	3 2 2 1	3 2 2 1
3 健康相談・相談活動	薬品・材料の整備保管、健康観察の観点及び救急処置基準等の作成・管理、保健に関する諸表簿の整備及び諸情報の整備・保管、救急処置、保健指導の場としての環境設定とその整備・活用	健康相談 相談活動	回 回	20 0	20 0	必要に応じて
4 学校保健に関する各種計画及び組織活動の企画、運営への参画及び一般教員が行う保健活動(園保健情報の把握、救急体制及び救急処置、園環境衛生、伝染病の予防)への協力		保健部会 マニュアルの作成	回 件	12 5	12 5	12 必要に応じて
5 保健室の運営		来室人数	人	400	400	必要に応じて

(ソフト事業) (B面)

事務事業名 [養護教諭派遣事業(園保健事業)]

6 事務事業の実績 <Do③>		21年度実績	22年度実績(見込)	23年度目標	備考 (成果指標の考え方・計算方法)
成果指標(意図の数値化)	単位				
保健指導	回	8回	8回	8回	直接的な成果をはかるのは難しい。
保健部会	回	12回	12回	12回	

7 事務事業の事後評価 <Check>		(ソフト事業)				担当の把握している課題	
チェック項目		該当項目に「○」					
必要性	需要への対応性	住民ニーズは	☐ 高い	☐ 高くない	☐	把握なし	常勤ではないので、判断を必要とするケガや病気の時にこそ不在であることが多い。
		緊急性は	☐ 高い	☐ 高くない	☐		
		利用者・対象者数は	☐	増加	減少	横ばい	
		他市町と比較して対象者に見直しの余地は	☐ ない	☐ ある	☐	把握なし	
必要性	町の関与の必要性	民間の事業(サービス)との競合は	☐ ない	☐ ある	☐		
		国や県の事業(サービス)との重複は	☐ ない	☐ ある	☐		
妥当性	サービス水準の妥当性	事業開始時から社会環境の変化は	☐ ない	☐ ある	☐		養護は対象に対してきめ細やかな対応が必要となるが、時間が限られていたり、必要となき時に不在であることが多く、信頼関係もできにくい状態である。
		環境変化によるサービス水準の見直しの余地は	☐ ない	☐ ある	☐		
	連携の可能性	他課で類似の事業は	☐ ない	☐ ある	☐	把握なし	
		他の事業と統合できる可能性は	☐ ない	☐ ある	☐	あるが困難	
効率性	手段・プロセスの効率性	事務事業を構成する業務に見直しの余地は	☐ ない	☐ ある	☐		生活習慣など学習の基礎となる養護の部分についても、常勤でなければ職員に働きかけにくい部分もあり、存在としてもあやふやで、効率がよいとはいえない。
		コスト削減の観点から実施方法を見直す余地は	☐ ない	☐ ある	☐		
		サービス向上の観点から実施方法を見直す余地は	☐ ない	☐ ある	☐		
		受益者負担を見直す余地は	☐ ない	☐ ある	☐		
有効性	目標の達成度	成果指標が明らかで	☐ ある	☐ ない	☐		達成度も対象が多い上に、毎年変わるのでわかりにくい。持続は必要であると思うが、対象が多く、日々の行事やけが・病気の対応に追われている状態で有効性は把握できない。
		前年より成果が上がって	☐ いる	☐ いない	☐ 横ばい		
	持続の可能性	継続することによる効果は	☐ 高い	☐ 高くない	☐		
		世代間負担の公平性、社会的平等性が保たれて	☐ いる	☐ いない	☐ 測定困難		
市場化の可能性	既に全部委託済	☐ 更なる委託化が可能である	☐ 委託化の余地があり	☐ 委託化は不可能			
	市場化テストの導入について検討する余地がある	☐ 市場化テストの導入を検討する余地はない					
改善の可能性		1.改善の余地はない		2.改善の余地がややある			
		3.改善の余地が多い		☐ 4.抜本的な見直しが必要			

事務事業評価書

8 改善提案と今後の改善の方向性 <Action> 養護教諭派遣事業(園保健事業)

職場からの意見(担当者)									
<p>(課題の解決についての提案など)</p> <p>23年度より2人体制となり人員面での課題は減少している。ただ今後においても生涯を健康に過ごすための基本的な生活習慣を身につける大切な幼稚園の時期であり、就学前のこの時期に丁寧に関わっていく必要があると考える。</p>									
担当課長評価									
<p>(課長としてこの事業をどのようにしていきたいか)</p> <p>新設したキッズランドかみにも養護教諭を配置できた。今後はさらに、家庭と連携した健康教育や基本的な生活習慣の確立に向けた取組につなげる必要がある。</p>									
所管評価		1. 重点的に継続		2. 現状のまま継続	○	3.内容を見直しながら継続		4. 縮小を検討	
		5. 統合・連携を検討		6. 休止・廃止を検討		7.終了・完了	内部評価		3
教育長評価									
<p>(教育長としてこの事業をどのようにしていきたいか)</p> <p>子どもの健康管理、食育など保護者への啓発も含め、重点的に取り組む。</p>									
事業評価	○	1. 重点的に継続		2. 現状のまま継続		3.内容を見直しながら継続		4. 縮小を検討	
		5. 統合・連携を検討		6. 休止・廃止を検討		7.終了・完了			
評価委員コメント									
<p>非常に良い取り組みである。大いに評価する。</p>									